

鳥取県

高P連

会報

第77号  
平成25年10月1日

発行所  
鳥取市扇町21番地  
鳥取県民ふれあい会館内  
PTA連  
0857-27-0730

ご挨拶

県高P連会長 池内勝彦  
(鳥取西高等学校)



鳥取県  
でPTA活動  
が始め  
り今年で  
六四年を  
迎えます

た。高校生の健全な成長を願い、  
高校教育の歩みと共に、その時代、  
その社会のもつ課題を解決するた  
めに鳥取県高P連は全力を傾けて  
まいりました。

ところでPTAの諸会合に参加  
しますと、皆さんが「子ども達に  
とつてもPTAにとつても、今は  
大変な時代」としばしば言われま  
す。

戦後のPTAの六四年の歩みの  
中では、学制改革、男女共学等の  
占領軍の施策と戦後の混乱期、ベ

ピーブーム・高度成長と受験戦争、  
拝金主義のバブル経済、そして少  
子高齢化時代となつても、いじめ  
の問題、インターネット、携帯電話  
スマホ等々、大変で無かつた時代  
はありません。

六十年前も十年前も「大変だ」  
と皆さんおっしゃっていた筈です  
し、十年先、二十年先の未来もきつ  
と大変だと思えます。要は「大変  
で無い時代など無い」と認識し、

「大変、大変」のワンフレーズで思  
考停止しないように、十九世紀ア  
メリカの神学者ラインホルト・ニー  
バーの The Serenity Prayer を引  
用しますと、

神よ、  
変えることの出来ないものを  
受け入れる平静さを、

変えるべきものを変える勇気  
を、そしてそれらを識別する  
知恵を与えたまへ。  
という意識で臨みたいと思ってい  
ます。

温故知新、不易流行ではないで  
すが、判断に迷った時には、古典  
に立ち返ることです。

初代の鳥取県高P連会長の言葉  
が鳥取西高校の百年史に収録され  
ています。「PTAとしての一番の  
苦心は、強固なる団結のもとに、  
清新にして和氣にみちみちたる校  
風を作り上げるかと云う事です  
た。」とあります。

それぞれの高校の教育方針のも  
とに、清新にして和氣にみちみち  
たる校風をつくるのは、言うまで  
もなく、ひとりひとりの生徒、つ  
まり私達の子ども達であり、そし  
て子ども達を見守る私たち保護者  
と先生、すなわちPTAのPとT  
です。

鳥取県の子どもたちをこよなく  
愛する者のひとりとして、よき校  
風をつくるために、保護者の皆様  
には、今まで以上に積極的にPT  
A活動に参加していただきますよ  
う、よろしくお願ひして、私から  
最後の寄稿とさせていただきます。

祝 PTA活動振興  
功労者表彰

池成幸吉氏

(前県高P連会長)

この賞は、PTA創立六十五  
周年に当たりPTA活動の振興  
に功績のあった者を文部科学大  
臣が表彰するもので、池成前会  
長が受賞されました。

池成前会長は平成十九年度よ  
り二年間鳥取県高P連の会長と  
して、常に「ともに学ぶ」とい  
う理念のもと、保護者自らの意  
識改革を求め、親の役割・責任  
の重要性を多くの場面で訴え、  
各種研修会など学校を支えるP  
TA活動をさらに活性化させま  
した。

その主なものは

- ① 専攻科の廃止が決まってい  
た西部地区高校の存続延長が  
認められる気運を作った。
- ② 「高校生総合保障制度」の活  
用を積極的に推進した。
- ③ 列車利用率が増す中、JR  
に対して、高校生が利用しや  
すいダイヤ改正を強く陳情した。

④ 人権教育推進のために、講  
演会・研修会へ保護者の積極  
的参加を呼びかけた。

⑤ ケータイやインターネット  
による危険から子どもを守る  
ため研修会を開催し、親子で  
話し合う機会を作るよう積極  
的に取り組んだ。

〈池成氏 喜びの言葉〉

この度は身に余る荣誉な賞を  
頂き有難うございました。  
PTA活動では、私自身多く  
の事を学ばせて頂きました。  
この経験を、将来を担う若者  
たちに少しでも役立つよう陰な  
がら務めさせて頂きたいと思っ  
ております。

最後に、県高P連の益々のご  
発展を祈り、受賞に当たつての感  
謝の言葉とさせていただきます。



高等学校の

特別支援教育の2022

鳥取県教育委員会事務局  
高等学校課

県教育委員会では、平成二十三年、二十四年度の二期間、高等学校における発達障がいのある生徒支援事業」を実施しました。

この事業では県内東中西部地区の高等学校を一校ずつ指定して、生徒を支援するための校内体制を整備し効果的な支援についての研究を行いました。

日々の授業では、  
・ 難しい作業手順を文字だけでなく写真添えて示す  
・ 困り感に応じた学習プリントを準備する

・ 各授業でばらばらだった板書の仕方を統一する  
など、特別な支援を必要とする生徒だけでなく、すべての生徒にとって「わかりやすい授業」となるよう研究を進めました。

また、学校生活では、  
・ コミュニケーションのトレーニングを取り入れる  
・ 感情をクールダウンできる場所を設ける  
・ 視覚的にとらえやすい掲示物

となるよう工夫し、掲示方法も整理・統一する  
こうした取組について、保護者のみなさんからも「高校生活に対して安心感が得られ、相談がしやすくなった。」などの声をいただきました。

校内での支援は一定の成果がありました。就職や進学の際の移行期に必要な支援や、社会的な自立に向けた支援については課題が残りました。

本年六月に、この事業の成果と課題をまとめ、高等学校向けの「特別支援教育の手引き」として刊行したところです。鳥取県教育委員会高等学校課のホームページにも掲載していますので、是非ご一読ください。



また、この二年間の事業の成果を各学校に広げ、課題に対応するために、今年度から生徒支援のネットワークづくりのための新事業を開始しました。

この事業では、東中西三地区の高等学校の担当教員と特別支援学校の高校担当教員、専門家が協力して、支援の相談会や教員研修を企画したり、各学校に助言を行ったりしています。このほか、関係機関が一堂に会して、社会的な自立に向けた支援を協議するなど、支援のためのネットワークづくりを進め、高等学校全体の特別支援教育をレベルアップしていくこととしています。

「支援をつなぐ」

鳥取県教育委員会事務局  
特別支援教育課

平成十九年度から、幼稚園、小学校、中学校、高等学校等における特別支援教育が規定され、本県においても特別支援教育の推進に取り組んでいます。

知的な遅れのない発達障がいも含めて、学習面や生活面において特別な支援を必要とする幼児児童生徒にとって、長期的な視点に立ち、学校と家庭、関係機関が連携し、様々な側面から取組を進めていくことは非常に重要です。そのために、幼児期から学校卒業後まで一貫した支

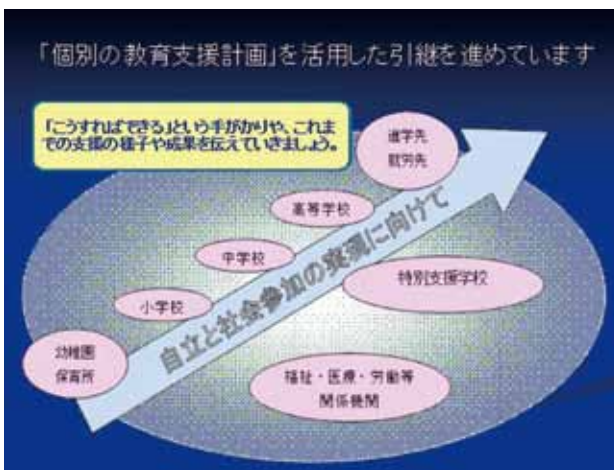
援を行うツールとして、「個別の教育支援計画」の作成と活用を進めています。

☆目的：自立と社会参加を目指すし、一貫した支援を行うために学校が中心となって作成

☆対象：学習上や生活上において困難さがあり、特別な支援を必要とする子ども

☆内容：一人一人の教育的ニーズを把握した支援目標や支援内容等の計画

その活用の取組の一つが、保護者の理解と協力を得て、中学校から高等学校への進学時に「個別の教育支援計画」を活用した引継ぎを進めることです。



「個別の教育支援計画」を活用して支援をつなぐことは、子どもたちがよりよい学校生活を送ることに繋がります。

この計画の策定には、保護者の皆様の理解と協力を得ることが必要のため、平成二十五年三月に「支援をつなぐ」という資料を作成しました。この中には、中学校から高等学校への引継ぎの方法や保護者や高校教員の声を掲載しています。保護者の方からは「引継ぎを行ったことで、子どもの特性を理解してもらい、適切な対応をもらえる」「早い時期から高校の先生とつながることで、子どもが安心して学校に通える」等の声が寄せられています。

高校卒業時、進学先や就労先に「個別の教育支援計画」を活用して引継ぎを行い、高校生活で伸びた力や成果を伝え、必要な支援をつなぐことができます。高校からでも作成は可能ですので、必要と思われましたら在籍校にご相談ください。

# PTA活動紹介

## 倉吉西高等学校

倉吉西高は、来年創立二〇〇周年を迎えます。今年も、耐震工事に加え記念事業に向けた取組など、新しい歴史の始まりに向けた準備を着々と進めています。

また、生徒諸君は、本校の校訓である「立志」のもと、常に『何のために』を意識して行動できるような心がけ日々生活しています。

PTAでは、様々な学校教育活動をサポートすることを目的に、四つの専門部で活動しています。



学園祭での模擬店

### ＜広報部＞

「西高通信」の発行（年四回）  
PTAの活動の様子や学校行事など、タイムリーな話題を読みやすい誌面にて提供するよう努めています。

### ＜健全育成部＞

- ・登校状況視察（年二回）
- ・交通安全運動
- ・さわやかマナーアップ運動（年二回）



人権教育校内研修会

### ＜ふれあい活動部＞

学校行事や会員相互の交流会をとおして親睦を深めます。  
・学園祭での模擬店の出店  
・PTA交流会（キンボール大会）

### ＜人権教育推進部＞

・ふるさとラリー（強歩大会）での豚汁提供  
・人権教育に関する各種研修会への参加や人権教育公開授業への積極的な参加を呼びかけます。昨年の校内研修会は、ワールドカフェ形式にてリラックスした雰囲気の中にも実り多い研修となりました。

（文責 会長 加藤一巳）

## 米子南高等学校

米子南高等学校は現在、時代のニーズに応える心豊かな職業人の育成と、人間関係力・持続力・忍耐力・チャレンジする力を身につける人材の育成を行うべく、日々の教育活動に取り組んでいます。

その中で、私達PTAとして、より良い環境作りへの協力を行い、そして家庭こそ人間関係力づくりの基本の場という考えのもと、まずは子ども達の見本となれるような様々な活動を通じて、保護者も同じように学び、連携を深めることのできるよう日々務めております。それらを実現すべく、本校では四つの専門部を中心に活動しています。

### 【人権教育部】

年三回、様々な研修会等を開催しています。  
様々なテーマで座談会を行う「しゃべらいや会」では、他校のPTAの方々にも呼びかけをし、多数ご参加頂いた回もあります。

また、講師をお招きした講演会で様々なことを学んでいます。人権だより「はじめの一步」も発行しています。

### 【研修指導部】

体育祭でのバザーの一環として麦茶のサービスを行い、生徒たちの熱中症予防と、サービスをとおして交流を深めています。バザーでは南高オリジナル商品の「にんじんアイス」などの販売も行います。年一回のPTA球技大会と、大学、専門学校の見学を行う研修旅行も行っています。

### 【国際交流部】

本校は韓国の春川ハンセン高校と交換交流を行っており、ホームステイ受入の年には韓国の歌や手作りのプレゼントでの歓迎を行っています。また、講師をお招きした講習会や国際料理教室も行っています。

### 【広報部】

年三回発行の米南だよりの編集を行っています。

また、参加者を増やすべく、内容をPTA活動に絞った広報紙の「縁-YUKARI」をフルカラーで発行しています。

### 【防犯パトロールプロジェクト】

本校では、PTAが中心となり、週二回、一回二便の防犯パトロールを行っています。不審者が現れそうな場所でのパトロール強化や犯罪予防に取り組んでいます。



山陰本線東山公園駅付近パトロール

女子生徒の多い本校では、不審者対策は大きな課題の一つです。活動の甲斐あって、現在ではパトロール区域での不審者出没回数が減少しています。

今後も防犯パトロールは強化し続けてまいりますので、近隣の皆様にもご協力の程、宜しくお願い致します。

（文責 会長 南場 太）



平成25年8月22日(木)、第63回全国高P連大会山口大会において表彰式が行われました。

鳥取県から受賞された個人・団体は次のとおりです。長年PTA活動にご尽力され素晴らしい成果をあげておられることが、多くの方々より高く評価された結果と存じます。受賞まことにおめでとうございます。

個人表彰

中島 理美 氏

(前倉吉西高会長)

- ・県高P連副会長1年
・地区高P連会長1年
・単P会長1年



本校のPTA副会長及び会長として、学校行事等で生徒と保護者

とが関わることでできる取組を設定するなど、PTA活動の充実に貢献した。

また、他校のPTA関係者とも連携を深め、地域PTAの発展にも大きく寄与した。

新宮 美津代 氏

(元米子南高会長)

- ・県高P連監査1年
・県高P連中・四代表役員1年
・単P会長3年



本校の学科改編による生徒数減に適切対応し、PTA組織の整備

と活性化を行い、学校諸活動に協力する取組が評価されてきた。また、防犯パトロール(不審者対策)をはじめ、鳥取県西部地区のPTA活動と連携し成果をあげた。

団体表彰

鳥取湖陵高等学校PTA

平成13年の開校時より「顔の見えるPTA」をモットーに生徒の学校教育活動をサポートし続けてきた。隣接高校と連携推進のため設置したPTA連絡協議会による活動は地域の児童・生徒の健全育成に寄与している。

米子高等学校PTA

挨拶、マナー、遅刻防止等の徹底を図る生徒指導や、地域の環境美化、学校祭等の学校行事への参加の他、自主的な進路・人権研修の取組み等を通し、学校教育活動をサポートしつつ、PTA活動の活性化に寄与した。

平成二十五年度 県高P連役員



会長 池内 勝彦 (鳥取西高等学校)



副会長 加藤 一巳 (倉吉高等学校)



副会長 前田 昇 (米子東高等学校)

参与 坂口祐二(鳥取西高)

新典之(岩美高)

牧尚志(倉吉東高)

平野公二(境港総合技術高)

松本清治(倉吉西高)

依藤典篤(米子東高)

谷口光子(岩美高)

高力晴代(鳥取中央育英高)

森田美由妃(米子工業高)

監査 中・四代表役員

池内勝彦(鳥取西高)

石谷 充(鳥取東高)

砂口浩二(米子西高)

事務局長

寺谷節男

平成25年度 県立高校PTA会長・校長名簿

Table with 9 columns: 所属校, 会長名, 校長名, 所属校, 会長名, 校長名, 所属校, 会長名, 校長名. Lists PTA presidents and school principals for various schools in Tottori Prefecture.

平成26年度各種研究大会等の予定

- 鳥取県高等学校PTA連合会総会 6月 中部地区
○中国・四国地区高等学校PTA連合会大会 7月11日(金) 高知県立文化ホール(高知市)
○全国高等学校PTA連合会大会 8月22日(金)・23日(土) サンドーム福井他(越前市他)
○鳥取県高等学校PTA指導者研究大会 11月 東部地区

平成24年度 会務報告

- 24.4.6 県高P連監査 鳥取 県民ふれあい会館
- 17 県高P連第1回役員会 鳥取 鳥取ワシントンホテルプラザ
- 6.9 県高P連定期総会 湯梨浜町 国民宿舎 水明荘
- 23 一般社団法人全国高等学校PTA連合会設立総会  
東京 東京ガーデンパレス
- 7.13 第54回中・四国地区高P連大会徳島大会  
徳島 アスティとくしま
- 30 県高P連第2回役員会 倉吉 ホテルセントパレス倉吉
- 8.8～9 第37回人権尊重社会を実現する鳥取県研究会  
鳥取 とりぎん文化会館  
※米子南高校が第1分科会第1分散会で司会
- 23～24 第62回全国高P連大会和歌山大会  
和歌山 和歌山ビッグホエール他
- 10.1 会報75号発行  
9～10 日韓家庭・地域教育交流事業  
鳥取 鳥取県庁他
- 17 県高P連第3回役員会 倉吉 ホテルセントパレス倉吉
- 27 中部地区高等学校PTA指導者研修会  
倉吉 新日本海新聞社中部本社
- 11.18 鳥取県高等学校PTA指導者研究大会  
淀江町 米子市淀江文化センター
- 25.1.17 県高P連第4回役員会 倉吉 ホテルセントパレス倉吉
- 2.22 会報76号発行

平成25年度 事業計画

- 1 各高等学校PTAの連絡提携
  - (1) 総会
  - (2) 役員会
  - (3) 通知・資料提供による情報の交流、協議決定事項の推進
  - (4) 会報の発行、各校PTA会報の交換斡旋
  - (5) その他
- 2 県・地区PTA活動の充実・展開
  - (1) 研修活動の推進(県・地区高校PTA連合会研修会、県PTA研究大会、県外への調査、研修)
  - (2) 青少年非行防止運動のための協力・実践
  - (3) 関係団体・組織との提携活動
  - (4) その他
- 3 県青少年健全育成・生涯学習諸活動への積極的参加
  - (1) 青少年育成鳥取県民会議
  - (2) 人権尊重社会を実現する鳥取県研究会
  - (3) 社会を明るくする運動
  - (4) 生涯学習関係諸集会、大会
  - (5) 全国高P連賠償責任補償制度への加入推進
  - (6) その他
- 4 県外PTA諸事業の振興・参加
  - (1) 中・四国地区高P連、全国高P連との提携およびその事業の推進
  - (2) 中・四国地区高P連、全国高P連大会における研究発表および参加
  - (3) 他県高P連、他地区高P連との情報交換等協力関係の維持推進
- 5 県内関係諸団体・組織との連携交流
  - (1) 県高等学校長協会
  - (2) 県教育委員会
  - (3) 県PTA協議会
  - (4) その他

平成24年度 収支決算書

収入の部 (単位:円)			
科目	予算額(A)	収入済額(B)	増減(B)-(A)
負担金	4,984,800	4,984,000	△ 800
補助金	1,600,000	1,600,000	0
前年度繰越金	2,822,855	2,822,855	0
繰入金	800,000	1,071,620	271,620
雑収入	100,345	100,691	346
合計	10,308,000	10,579,166	271,166
支出の部 (単位:円)			
科目	予算額(A)	支出済額(B)	増減(A)-(B)
会議費	500,000	230,864	269,136
事業費	2,570,000	2,166,890	403,110
研修費	800,000	453,857	346,143
地区研修活動費	600,000	600,000	0
活動費	100,000	80,077	19,923
地区活動費	210,000	210,000	0
広報費	750,000	724,416	25,584
事業事務費	110,000	98,540	11,460
運営費	4,245,000	3,579,258	665,742
人件費	2,260,000	2,257,708	2,292
旅費	1,200,000	722,320	477,680
運営事務費	85,000	56,665	28,335
借用料	170,000	145,717	24,283
通信運搬費	200,000	160,979	39,021
渉外費	50,000	18,500	31,500
社会保険料	250,000	213,369	36,631
雑費	30,000	4,000	26,000
負担金	300,000	237,712	62,288
租税公課等	200,000	96,750	103,250
備品費	90,000	89,000	1,000
退職積立金	60,000	60,000	0
東日本震災義援金	0	0	0
日韓交流事業	100,000	56,400	43,600
運営基金特別会計	1,500,000	1,500,000	0
予備費	743,000	45,225	697,775
合計	10,308,000	8,062,099	2,245,901

平成25年度 収支予算書

収入の部 (単位:円)			
科目	本年度 予算額(A)	前年度 予算額(B)	増減(A)-(B)
負担金	4,841,000	4,984,800	△ 143,800
補助金	1,184,906	1,600,000	△ 415,094
前年度繰越金	0	2,822,855	△ 2,822,855
繰入金①	1,200,000	0	1,200,000
繰入金②	800,000	800,000	0
雑収入	94	100,345	△ 100,251
合計	8,026,000	10,308,000	△ 2,282,000
支出の部 (単位:円)			
科目	本年度 予算額(A)	前年度 予算額(B)	増減(A)-(B)
会議費	225,000	500,000	△ 275,000
事業費	2,090,000	2,570,000	△ 480,000
研修費	550,000	800,000	△ 250,000
地区研修活動費	600,000	600,000	0
活動費	95,000	100,000	△ 5,000
地区活動費	210,000	210,000	0
広報費	600,000	750,000	△ 150,000
事業事務費	35,000	110,000	△ 75,000
運営費	4,996,000	4,245,000	751,000
人件費	3,406,000	2,260,000	1,146,000
旅費	750,000	1,200,000	△ 450,000
運営事務費	85,000	85,000	0
借用料	230,000	170,000	60,000
通信運搬費	200,000	200,000	0
渉外費	30,000	50,000	△ 20,000
社会保険料	275,000	250,000	25,000
雑費	20,000	30,000	△ 10,000
負担金	320,000	300,000	20,000
租税公課等	100,000	200,000	△ 100,000
備品費	0	90,000	△ 90,000
退職積立金	100,000	60,000	40,000
日韓交流事業	80,000	100,000	△ 20,000
運営基金特別会計	0	1,500,000	△ 1,500,000
予備費	115,000	743,000	△ 628,000
合計	8,026,000	10,308,000	△ 2,282,000

【平成25年度以降の高P連会計への考え方】

本会活動への助成を受けていた(財)鳥取県高等学校教育振興会が平成24年度末で解散したことにより、補助が受けられなくなった。その不足分を運営基金特別会計より定期的に繰り入れるようにするため、平成24年度収支差引額(決算額)2,517,067円は運営基金特別会計へ蓄え、次年度への繰越金を0円とした。数年

はこの形をとり、その間に事業内容の見直し等について考えていくこととする。

- 平成25年度収支予算書の科目について  
繰入金①…運営基金特別会計より繰り入れ  
繰入金②…団体保険手数料

### 第63回全国高P連大会 山口大会報告

平成25年8月21日(水)～22日(木)、山口県スポーツ文化センター・アリーナを主会場に、全国から約一万名(鳥取86名)が参加しました。

メインテーマは「夢から志へ」、そして「たくましく生きるチカラを育むために、今、私たちができること」をサブテーマで開催されました。



#### 主会場(アリーナ)

基調講演は演題「日本の教育の再生」で、初めに内閣総理大臣安倍晋三氏のビデオメッセージ。その後、文部科学大臣下村博文氏の講演がありました。

#### 講演内容

「超高齢社会」と「グローバル社会」が到来。今こそ「教育再生」が必要。人材育成では「個人の付加価値を高める」、「グローバルマインド・スキルの育成」が必要。教育再生の方向性として現在38項目を精査、整理、着手している。

これから求められることは、クリエイティブにものを考える力、自立的に考え、活動する力、優しさや思いやりなどの感性であり、新しい学びの形として、大分県豊後高田市の学校・家庭・地域が協働し「社会総がかり」で子どもたちの学習や体験活動を支援する取り組みが紹介されました。

次に「これから求められる力」を育むための環境づくり8策が紹介されました。

#### 分科会場

各会場では、午後一時より一時間「記念講演」、その後各分科会場で設定されたテーマにそった発表と活発な討議が行われました。(特別第一分科会は熟議)

閉会式では、県立防府商工高等学校によるアトラクション「お笑い体操」が紹介され、来年度開催予定の福井県に大会旗が渡り大会を終えました。

### PTA広報紙展示

米子西高校 「米西だより」  
青谷高校 「灯台」



### 第55回中・四国地区高P連大会 鳥根大会報告

平成25年7月12日(金)鳥根県民会館において、「縁を結び絆を育む」PTAから拡がる輪

だんだん「」を大会テーマに、中・四国地区高P連会員1,667名の参加で盛大に開催されました。鳥取県からは138名の参加がありました。

午前の講演は、「家庭内のコミュニケーションを考える」聴く力の種」と題し、鳥根大学教育学部初等教育開発講座講師

香川奈緒美氏による講演がありました。

昼食後のアトラクションでは、出雲農林高校生による勇壮な「七兵衛太鼓」の演奏。大杜高校生の「宇宙」をイメージとした若さあふれるダンス・パフォーマンス。そして、浜田商業高校生の息の合った石見神楽「大蛇」が上演されました。



午後の研究協議では、①学校とPTA「キャリア形成と職業観」、②家庭教育とPTA「人材づくりとコミュニケーション」、③地域おこしとPTAについて発表が行われました。その中で鳥根県立隠岐島前高校の「高校魅力化が結ぶ人との縁」では、卒業し島から離れていく高校生が多い中

で、「ピンチは変革と飛躍へのチャンス」という考え方に立ち、子どもが「行きたい」、親が「行かせたい」、地域住民が「この学校を活かしていきたい」と思うような魅力ある高校づくりを目指す「島前高校魅力化プロジェクト」が紹介されました。人材の育成、教育環境の整備、意欲ある生徒の募集、島留学生と地域をつなぐ仕組みなどが報告され、そのことにより島前高校への入学者数は増え続けており、参加者の関心呼びました。

閉会式では、来年開催予定の高知県へとバトンが渡され、大会は閉幕しました。(文責 寺谷)

#### 事務局より

第77号より、会報のページ数が8ページから6ページになりました。今まで高P連の活動助成金の補助を受けていた(財)鳥取県高等学校教育振興会が平成25年3月31日をもって解散したためです。

ページ減となりましたが、皆様のご期待に応えるべく紙面づくりに努力したいと思えます。